

## 獨協大学国際教養学部言語文化学科所属 専任教員2022年度研究業績一覧

(2022年4月～2023年3月までに一般に公開された各専任教員の研究業績の一覧)

明田川聡士

著書（共著）

- ・『台湾書旅：台湾を知るためのブックガイド』NPO法人日本台湾教育支援研究者ネットワーク編（「日本の台湾文学研究」、紀伊國屋書店・台北駐日経済文化代表処台湾文化センター、2022年9月、22～23頁）
- ・『2021年臺灣文學年鑑』林巾力總編輯（「日本對臺灣文學研究概述」國立臺灣文學館、2022年12月、pp.109-112）

著書（翻訳）

- ・劉梓潔（明田川聡士訳）『愛しいあなた』（書肆侃侃房、2022年10月）

論文（単著）

- ・「詮釋與創新：論李喬〈小説〉中安部公房之存在」（『2022李喬文學、文化與族群論述國際學術研討會會議論文集』國立清華大學臺文所、2022年5月、pp.253-274）
- ・「異質空間中的歷史挪用：張貴興《野猪渡河》初探」（『生命的印記：文學家與他們的時代國際學術研討會會議論文集』輔仁大學中文系、2023年3月、pp.569-581）
- ・「異質な空間での歴史の引用：張貴興『野猪渡河』を中心に」（『マテシス・ユニウェルサリス』第24巻第2号、獨協大学国際教養学部、2023年3月、1～22頁）

解説（単著）

- ・「自著を語る：『戦後台湾の文学と歴史・社会』」（『理』関西学院大学出版会、第62号、2022年4月、2～3頁）
- ・「物語化される21世紀台湾人女性の恋愛と価値観」（劉梓潔『愛しいあなた』、書肆侃侃房、2022年10月、209～215頁）

翻訳（単訳）

- ・黄崇凱「次の二十年」（『本は旅立つ』、書肆侃侃房、2022年4月、33～35頁）

口頭発表

- ・「詮釋與創新：論李喬〈小説〉中安部公房之存在」（2022李喬文學、文化與族

群論述國際學術研討會、2022年5月)

- ・「自著を語る：成果と課題、今後の方向性」(東京台湾文学研究会例会、2022年6月)
- ・「異質空間中の歴史挪用：張貴興《野豬渡河》初探」(生命的印記：文學家與他們的時代國際學術研討會、2023年3月)

學術大会コメント

- ・「羅詩雲「創傷與創生：論戰爭期臺人少年世代的歷史記憶和創傷書寫」に対するコメント」(生命的印記：文學家與他們的時代國際學術研討會、2023年3月)

出演

- ・劉梓潔『愛しいあなた』(書肆侃侃房)刊行記念 劉梓潔×金原ひとみ トークイベント「愛はいつも痛い」における司会

浅山 佳郎

報告(単著)

- ・「研究例会報告 文法と日本語教育」(『獨協大学外国語教育研究所2021年度事業報告書』、獨協大学外国語教育研究所、2022年11月、1～28頁、2022年1月の研究会発表を文字化したもの)

注釈(共著)

- ・「羅山隨筆抄訓釈稿(十一)」(共著者：瀧康秀、長尾直茂、永吉徳夫、比留間健一、共同研究につき本人担当部分抽出不可能)(『上智大学国文学科紀要』第40号、上智大学国文学科、2023年3月、77～150頁)

口頭発表

- ・「中国涼山地区における母語としての彝語教育」(曲木威古と共同発表)(獨協大学外国語教育研究所2022年度公開研究例会、2023年1月)

安間 一雄

著書(分担執筆)

- ・Matrix Theory: Classics and Advances [行列理論：基礎と応用], Andriychuk, M. I. (ed.) (Amma, K. “Matrix as an alternative solution for evaluating sentence reordering tasks.” [文並べ替え問題評価方法の代替解としての行列], 2023年1月, pp.53-70)

発表（単独）

- ・「不定散発出現事象のパターン化及びグループ化：中学校英語教科書の文法事項傾向調査」[Patterning and grouping of irregular occurrences: Survey of frequency of grammar items in junior high school textbooks]. (Discovery Summit Japan 2022, 2022年11月17日)

発表（共同）

- ・「文法指導と誤り訂正は是か非か：アメリカとコロンビアの事例を読む」（渡邊一弘との共同発表）（獨協大学情報学研究所・外国語教育研究所共同研究会、2023年1月21日）

臼井 芳子

論文（共著）

- ・「英語科教職課程履修生の共同体における協働的振り返り」（浅岡千利世、臼井芳子、秋山朝康、渡辺敦子の共著）（『言語教師教育』10巻1号、2023年3月、62～81頁）

浦部 浩之

著書（共編著）

- ・『国境の時代』宮脇昇・樋口恵佳・浦部浩之編（大学教育出版、2022年5月、全266頁）

著書（分担執筆）

- ・『ウクライナ侵攻はなぜ起きたのか—国際政治学の視点から』宮脇昇編（担当部分：「(第2章) ウクライナにおける選挙監視活動」早稲田大学出版部、2023年2月、61～94頁）

論文（単著）

- ・「2009年ホンジュラス選挙と選挙監視団派遣をめぐる外交論争」（『マテシス・ユニウェルサリス』第24巻第2号、獨協大学国際教養学部、2023年3月、23～54頁）

口頭発表（単独）

- ・「ウクライナにおける国際選挙監視活動からみえてくる紛争とガバナンスの問題」（グローバル・ガバナンス学会 第15回研究大会、2022年11月）

## 岡村 圭子

### 研究報告

- ・「都市文化としての団地」(公益財団法人アーバンハウジング、団地の文化的価値に関する研究会、2023年1月31日)

### 講演

- ・「コロナ禍で見えた多文化共生」(第3回地域福祉推進プラットフォーム、基調説明、2022年2月18日)
- ・「団地研究から見る地域ネットワークの構築について」(令和4年度 埼玉葛都市社会教育振興会研修会、吉川市中央公民館、2022年5月18日)
- ・「今、ローカルメディアが面白い」(獨協大学連携講座、足立区生涯学習センター、2022年11月23日)
- ・「日本に居住する外国籍者の位置づけと歴史的経緯」(日独合同オンライン・ゼミナール、テーマ「Interkulturelle Pädagogik」、カイザースラウタン大学、Prof. Dr. M. Esweinゼミ、獨協大学、2022年6月23日)

### 社会的活動

- ・公益財団法人 草加市文化会館・理事
- ・草加市ふるさと応援基金運営委員会・委員長
- ・草加都市計画事業新田駅西口土地区画整理審議会・委員
- ・草加市社会福祉審議会・委員
- ・八潮市自治基本条例検証委員会・委員

## 川村 肇

### 論文(単著)

- ・「일본의 생활지도—근대 교육에서의 삶의 방식의 지도」(『교육비평』50호, 2022년 12월, 140-171쪽)

## 呉 浩東

### 論文(単著)

- ・「難解な表現の言い換えによるテキストの平易化」(『マテシス・ウニウエルサリス』第24巻第2号、獨協大学国際教養学部、2023年3月、55～66頁)

高 恩淑

論文（単著）

- ・「『辞書形』を基本形とする動詞分別法の導入について—学習者にやさしい動詞の導入方法を考える—」（『マテシス・ユニウェルサリス』第24巻第2号、獨協大学国際教養学部、2023年3月、67～76頁）

学会発表（単独口頭発表）

- ・「受身形式を用いる韓国語の可能表現の様相」（第46回韓国日本語学会秋季學術大会、2022年9月）
- ・「初級日本語教育における『辞書形』導入について—学習者にやさしい動詞分別法とは—」（第68回大韓日本語日文学会秋季国際學術大会、2022年11月）

小宮 秀陵

著書（共著）

- ・『多元的中華世界の形成：東アジアの「古代末期」』佐川英治編（「6世紀新羅における大王号の使用とその意義」、臨川書店、2023年2月、246～266頁）

口頭発表

- ・「8세기 중엽 신라의 대왕사상과 왕성국의 표방」（2022년 성균관대학교 국제학술대회：『위기 이후』, 성균관대학교 사학과 4 단계 BK21 교육연구단 주최：성균관대학교 사학과, ZOOM(온라인), 2022年6月17日）

齋藤 哲

資料（共著）

- ・「第二次沖縄民事陪審裁判－1965年秋の訴訟記録－（5）」（『マテシス・ユニウェルサリス』第24巻第1号、獨協大学国際教養学部、2022年10月、79～120頁）
  - ・「第二次沖縄民事陪審裁判－1965年秋の訴訟記録－（6）」（『マテシス・ユニウェルサリス』第24巻第2号、獨協大学国際教養学部、2023年3月、129～168頁）
- ＜2021年度研究業績（追加）＞

資料（共著）

- ・「第二次沖縄民事陪審裁判－1965年秋の訴訟記録－（3）」（『マテシス・ユニウェルサリス』第23巻第1号、獨協大学国際教養学部、2021年10月、135～180頁）
- ・「第二次沖縄民事陪審裁判－1965年秋の訴訟記録－（4）」（『マテシス・ユニウェルサリス』第23巻第2号、獨協大学国際教養学部、2022年3月、209～248頁）

齋藤 雪絵

論文（単著）

- ・「Exploring the potential role of speed writing activities in academic writing courses」（『獨協大学外国語教育研究所紀要』11号、獨協大学外国語教育研究所、2023年3月、59～73頁）

研究報告（単著）

- ・「大学英語授業での多聴の試験的導入に関する実践報告」（『マテシス・ユニウエルサリス』第24巻第2号、獨協大学国際教養学部、2023年3月、181～198頁）

田口 雅徳

論文（単著）

- ・「大学生におけるアクティブラーニング型授業に対する取り組み方と性格特性との関連性」（『学習開発学研究』15号、広島大学大学院人間社会科学研究科、2023年3月、3～10頁）
- ・「大学生の国内・海外への旅行意図と観光動機および新型コロナウイルス感染症に対する感染リスク認知との関連」（『マテシス・ユニウエルサリス』第24巻第2号、獨協大学国際教養学部、2023年3月、199～210頁）

野原ゆかり

論文（単著）

- ・「外国人技能実習生の日本語学習と使用に関する実態調査—地方の食品製造工場を事例に—」（『マテシス・ユニウエルサリス』第24巻第2号、獨協大学国際教養学部、2023年3月、169～180頁）

口頭発表

- ・「外国人技能実習生の日本語学習と運用に関する実態調査—地方の食品製造工場を事例に—」（日本言語文化学会 第58回研究会、2022年10月22日）

平田彩奈恵

論文（単著）

- ・「『源氏物語』常夏巻における近江の君の文と「垣」—「垣根に植ゑしなでしこ」を手掛かりに—」（『中古文学』111号、中古文学会、2023年5月、62～76頁）

## 堀川 宏

### 書評

- ・「Tom Phillips, *Untimely Epic: Apollonius Rhodius' Argonautica*」(『西洋古典学研究』第70号, 岩波書店, 2023年3月, 84~87頁)

### 口頭発表

- ・「神話と叙事詩 アポロニオス・ロディオス『アルゴナウティカ』の場合」(神話学研究会, 2023年1月28日)
- ・「私にとっての古典ギリシャ語」(駐日ギリシャ大使館主催「世界ギリシャ語デー記念講演」, 2023年2月9日)
- ・「古代ギリシャの詩人たち」(北白川学園山の学校「西洋古典の夕べ」, 2023年2月25日)

## 安井 一郎

### 著書(編集・解題)

- ・『戦後初期コア・カリキュラム研究資料集 諸団体編 補遺』全4巻、金馬国晴・安井一郎・溝邊和成(クロスカルチャー出版、2022年9月)

### 論文(単著)

- ・「特別活動における自己実現とその実践上の課題」(『初等教育資料』1020号、東洋館出版社、2022年5月、50~53頁)
- ・「with/post コロナにおけるこれからの学校行事」(『教育実践ライブラリ』3巻、ぎょうせい、2022年10月、8~11頁)

### 論文(共著・分担)

- ・「特別活動と総合的な学習の時間につながる戦後初期経験カリキュラムの原理と方法—東京学芸大学・第一師範学校附属小学校、第二師範学校附属小学校、第三師範附属小学校の比較研究—」林尚示・安井一郎・鈴木樹・眞壁玲子・元笑予・下島泰子(『関係性の教育学』21巻1号、関係性の教育学会、2022年5月、119~133頁)
- ・「1人1台端末環境を活用した特別活動の新しい指導方法とその効果—東京都内の小学校を中心とした事例分析—」林尚示・安井一郎・鈴木樹・眞壁玲子・元笑予・下島泰子(『東京学芸大学紀要 総合教育科学系』74巻、2023年2月、1~13頁)

### 口頭発表(共同研究発表)

- ・「1人1台端末環境を活用した特別活動の新しい指導方法とその効果—東京

都X市の小学校の事例分析一」林尚示・安井一郎・鈴木樹・眞壁玲子・元笑予・下島泰子（日本特別活動学会第31回大会自由研究発表、福岡教育大学：Web開催、2022年8月22日）

## 山本 英政

エッセイ（単著）

- ・「なぜ、ハワイ：アロハの心に魅せられて、二世の里帰り」（『思想の科学研究会年報』4号、思想の科学研究会、2022年11月、120～125頁）

## 依田 珠江

学会ポスター発表（共同）

- ・「暑熱環境下での走行中の体温変化—生理計測値と熱平衡式による比較—」瀧井靖歩、福田誠、依田珠江、田川武弘（第77回日本体力医学会大会、2022年9月21日～23日、オンライン開催）

## 林 永強

共著（分担執筆）

- ・ *Tetsugaku Companion to Nishida Kitarō*. Matsumaru, Hisao, Arisaka Yoko and Lucy Cristina Schultze. eds. (Lam, Wing Keung. "Nishida Kitarō and Virtue Ethics: With a Focus on Zen no Kenkyu". Dordrecht: Springer, 2022, pp.207-218)

論文（単著）

- ・ "Reading Nishida Kitarō as a New Confucian: With a Focus on His Early Moral Philosophy". (*Asian Philosophy*. Vol. 33, Issue 1, 2023, pp.15-28)

口頭発表（単独）

- ・ "The primacy of feeling in Nishida Kitarō's moral philosophy: On the unpublished material "Gedanken". (International Conference on "Feeling, Rationality and Feeling: East and West." Universitat Pompeu Fabra, Barcelona, Spain, 5-6 November 2022)
- ・ "The Feeling of Happiness, Moral Sentimentalism and Knowing-to: On Nishida Kitarō's Energetism". (Department of Culture, Fukuoka University, 18 December 2022)
- ・ 「物語ることと聞くことのはざまで：感じ取ることについての試論」（ワーク



シヨップ「物語り論の今」東北大学大学院文学研究科哲学倫理学講座、2023年3月6日)

和田 一郎

論文 (単著)

- ・「保健所の covid-19 への対応から見た感染症業務の課題」(『危機管理防災研究』28巻、2022年4月、35～42頁)

論文 (共著)

- ・「児童相談所一時保護所の人材育成に関する基礎的研究」鈴木勲、太田研、和田一郎、仙田考(『社会保育実践研究』7巻、名寄市立大学保健福祉学部社会保育学科、2023年3月、9～20頁)
- ・「放課後児童クラブにおける 危機管理マニュアルの活用に関する探索的調査：設置・運営形態による特徴」太田研、鈴木勲、和田一郎、仙田考(『日本社会福祉マネジメント学会誌』3巻、2023年3月、53～66頁)
- ・“Estimating the Social Costs of Child Abuse in Residential Care for Children with Disabilities Using the Japanese Survey on the Interactions of Adverse and Positive Childhood Experiences toward Adulthood” Naruhisa Nakane, Ichiro Wada (International Journal of Environmental Research and Public Health, 19(24), 2022年12月, 16476-16476)

口頭発表 (単独)

- ・「人口減少社会に対応する児童相談所の業務最適化—データサイエンスを利用した相談業務を中心に—」(日本子ども虐待防止学会第28回学術集会ふくおか大会、2022年12月11日)
- ・「一時保護所の子どもに寄り添うアドボケイトの評価—政策評価の視点から— (シンポジウム：第三者評価の準備段階で見てきた児童相談所一時保護所の法律・制度上で抱える課題)」(日本子ども虐待防止学会第28回学術集会ふくおか大会、2022年12月10日)
- ・「行政DX導入のポイント」(地方行政実務学会第3回全国大会 研究・実践セミナー、2022年12月3日)

